

5月20日久しぶりに明治記念館で庭を眺めながら遅い昼食をしていたら、ふと今日は浅草の三社祭だっ
たと思い出し、表へ飛び出してタクシーで浅草へ直行しようと思ったが、混雑・制限で入れないだろうと
思い逆方向の浜離宮入口で降り、運河沿いに水上バスの乗り場へと急いだ。ぎりぎりに着いた水上バスは
まさに満員でしたが、終点の日の出棧橋で客を乗せかえてまた満席にして隅田川を北上して浅草へと向か
いました。船が隅田大橋、清洲橋、新大橋とくぐり抜けて両国へ近づいた頃から左岸は風景を変え武家屋
敷の白く高い塀を思わせる堤となり、その塀は延々と数キロも続いていました。両国国技館の旗のぼりを
右岸に眺めながら駒形橋を過ぎたあたりから堤防は一変してブルーのテントが岸に沿って乱立して吾妻橋
の近くまで続いていました。ホームレスの住まいの様でした。東京都は今、この運河を心やすらぐ観光資
源として活用しようと「運河ルネッサンスプロジェクト」をスタートさせております。皮肉な言い方です
が、都内でも各区によってそれぞれ堤の活用が様々でした。

名古屋でも中心地まで運河による水上交通を伸ばそう、いっそう運河大学を作ろうなどの話もあります。
西欧の運河観光はまさにその証明であります。君津は「水と緑」と首都圏で最も優れた観光資源を持って
います。都会と田舎の格差、混雑とゆとりの違い、煤煙と透明な生活環境を大切に活かしてもらいたいも
のです。

吾妻橋のたもとから浅草河岸へ上るとそこは祭りの大群衆で埋まっていた。あの広い浅草通りは大
津波の様な人の波と大歓声でした。その波の上に神輿が統御して少し傾いた西日をあびてキラキラとゆれ
ていました。立錐の余地もなく流れにもまれ流されて行くしかありませんでした。やっと人の渦から新仲
見世通りへ入って一息入れたと思った途端、一台の神輿がこの通りへと入ってきました。熱気と巨大なエ
ネルギーとなった集団はこの通りをはじけさせてしまいそうな勢いで多くの若衆は西側の見物客と店を体
を張って防いでおりました。私達もそばの靴屋に逃げ込みましたが地響きで棚から物が落ち、陳列品が崩
れる凄さでした。よく見ると神輿を担いでいる者はほとんど若い女性と娘たちでありました。この日の三
社祭は人出150万人とテレビが報じておりました。祭りのピークは夜の8時だからそれまで、と勧められ
ましたが、早めに地下鉄に乗りました。浅草から神田まで祭半纏を着た女性がいっぱい、中には子供連れ
の女性もいました。大方は広小路、末広町あたりで降りて行きました。台東区内から集って祭りを盛り上
げているようでした。

私達の君津も夏祭り、秋祭りがやってきます。町内だけの祭りでなく市内外から集り、祭りを盛り上げ
たいものです。人が集れば祭りは盛んになり、祭りが盛んになれば人は相乗効果でより集ります。PR、
案内状をご苦労ですがたくさん出してください。祭りは各町内が相互乗り入れして盛り立てていく、新旧
住民の交流も図られます。祭りで更にコミュニケーションをよくして、コミュニティ、アメニティ、セー
フティな街づくりを祭りで作って下さい。